

平成23年度(2011年度)第1回 とよなか都市創造研究所運営委員会 議事要旨

日 時 : 平成23年(2011年)6月10日(金) 10時～12時10分
場 所 : 豊中市役所別館3階 研修室
出席委員 : 赤尾, 北村, 新川, 池本, 伴野, 本荘, 江口
事務局 : 久野, 岩佐, 村山, 大床, 仲谷

○開会

○部長挨拶

○委員及び事務局紹介

(資料2「とよなか都市創造研究所運営委員会名簿」に基づき, 事務局から紹介)

○案件(1) 委員長, 副委員長の選任について

資料: 資料1「とよなか都市創造研究所運営委員会設置要綱」

(とよなか都市創造研究所運営委員会設置要綱第5条第2項に基づき, 委員の互選により決定。)

委員長: 新川委員, 副委員長: 北村委員

委員長

- ・この研究所が外郭団体から庁内組織となってから委員として参加してきた。内部組織化された当初から, この研究所の意義についてはいろいろ議論があったが, 研究所が独自性を発揮することを基本として, 研究を通じて市政や市民に貢献する。研究を通じて教育や学習の機会を提供できる。また, 研究を通じて都市政策に関するデータや知見を集積することができるという役割をもって取り組んできた。5年目ということで, 改めて意義や役割など, これからの研究所づくり, 市政とのよりよい関わり方を考えていく場としたい。

○案件(2) 平成23年度調査研究のアプローチについて

資料: 資料3「とよなかのすがた～数値から見た豊中市の現状把握～」

資料4「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究」

資料5「若年層(高校生)の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察(Ⅲ)」

事務局から資料に基づき説明

<「とよなかのすがた～数値から見た豊中市の現状把握～」について>

委員

- ・計画の進行管理のための施策単位データ集は, 政策・施策評価と類似する。それは市民への市政理解や, 新たな政策課題の発見とは少し異なる内容である。

事務局

- ・施策体系別データ(事後評価)と, 学区別「ヒト」データ(事前評価)の2部構成のようなイメージを考えている。

委員

- ・丁目や地域メッシュ等の細かな区分のデータ整備になればよいのではないか。
- ・警察庁の『警察白書』では、第1部が特集ページ、第2部が機能別データ集になっている。豊中のデータブックにおいてもそのような住み分けができればよいのではないか。そのためにも、機能別のデータの収集は、なるだけ合理的に行うほうがよい。
- ・既存データの焼き直しでは意味がないかもしれないので、そのあたりは検討する必要がある。

<「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究」について>

委員

- ・滋賀県長浜市・兵庫県尼崎市・大阪府茨木市等の事例を踏まえて、市政が重点を置く点と市民が感じているイメージとでずれが生じうることもある。
- ・ある程度調査項目を絞らなくてはアンケートを実施するにしても集計が難しくなる。
- ・本調査結果が市の職員の参考情報ともなる。
- ・豊中市といっても、南部と北部では特性が異なると思うので、ひとくくりにするのは難しいのではないかとも思う。
- ・町（地区）レベルを盛り上げるために、市政に頼らない民間の取り組みもなされている。

事務局

- ・住宅都市であることなどの絞り込みの必要性も感じている。

委員

- ・作業が多いものの発見のある調査研究にしてもらいたい。

<「若年層（高校生）の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察（Ⅲ）」について>

- ・3年目の研究となるため、これまでの調査内容を集約していく年となるが、研究が散漫にならないため、最初にリサーチクエスチョンをしっかりと立てておくのが良いと思う。
- ・先進事例を調査していくとのことであったが、きちんと焦点を絞ってそこから調査に入った方が良いと思う。
- ・「地域」というのはどこをさすのか。高校になると、豊中市外から通ってくる生徒も多いのではないか。

事務局

- ・この研究では、豊中市在住ではなく、豊中市内に通う高校生を対象に考えている。

事務局

- ・研究テーマごとのご意見・ご指摘等を踏まえ、調査研究に取り組んでいく。

○案件（3）平成23年度機関誌の発行について

資料：資料6「平成23年度機関誌「ビジョン22」の発行について」

事務局から資料に基づき説明

（事務局提案に基づき、今年度の編集委員に新川委員が選任された。）

委員

- ・「都市生活における安全・安心」というテーマ設定のもと、都市らしい安全・安心社会の構築

を特集とし、トピックスでより身近なテーマへと掘り下げるのもいいのではないか。

- ・豊中市の危機管理担当者に、「もし災害が起こったら豊中市はどのような対応メニューを用意しているか」というようなインタビュー記事を含めてはどうか。

事務局

- ・担当研究員がインタビューを行いたい。

委員

- ・防災教育に関する執筆担当者として、関西大学社会安全学部の研究者を執筆者として紹介は可能だ。

事務局

- ・委員のご意見等を参考にしながら、編集委員の新川委員と編集案を取りまとめたい。
- ・編集案については、各委員にも回付するのでご意見をいただきたい。

○案件（４）その他「会議の公開について」

資料：資料７「運営委員会の会議の公開について」

資料７＜参考＞「とよなか都市創造研究所運営委員会の会議傍聴要領（案）」

事務局から資料に基づき説明

委員

- ・傍聴定員については、会場の都合もあるが、可能な限り受け入れるべきではないか。

事務局

- ・傍聴要領（案）２のただし書き「会場の都合によりこれを増減することができる。」との規定で、運用は可能である。

委員長

- ・傍聴定員については、可能な限り受け入れることとしたい。
- ・次回第２回運営委員会から会議を公開することとする。
（全員一致で次回第２回会議から公開を決定。）

○その他（報告事項）

資料：資料８「とよなか都市創造研究所運営委員会（平成２２年度第３回）結果概要

資料９「平成２２年度事業実績報告書」

事務局から資料に基づき説明

（運営委員会の結果概要は、この内容をホームページに掲載する。）

委員長

- ・平成２２年度事業実績報告書についての意見は、事務局までお願いしたい。

○事務連絡

事務局

- ・次回第２回運営委員会は、１０月か１１月頃に開催したい。

○閉会